

世界有数のIT産業拠点へと成長したインド

メイド・イン・インド ～ IT産業成長の背景を通じてさらなる発展を期待！ ～

▶ インドIT産業の成長

インドのITサービス関連売上高の推移（推計値）

(億米ドル) 期間：2016年～2026年（年次）



※売上高は2021年8月時点のデータ

製造業を中心に発展した東アジア諸国とは異なり、インドはIT産業などのサービス業が牽引する独特な成長パターンを実現してきました。

元々は欧米IT企業の下請け的な企業が多かったのですが、現在では、マイクロソフト、グーグル、アマゾン、オラクルといった米国の大手IT企業が自社の開発拠点をインド（特にベンガルール（旧バンガロール））に置いています。また、ITスタートアップ企業も増えてきており、多くのユニコーン企業（企業価値が10億ドル以上の未上場企業）が誕生しています。

▶ インドでIT産業が発達した背景

何故、インドにおいてIT産業が急速に発展したのでしょうか？ 一般的には、以下の様な背景によるものではないかとされています。

①教育（数学）

インドはゼロを発見した国として有名ですが、インド政府はイギリスから独立後、特に長い歴史を持つ数学に焦点を当て、教育に力を入れてきました。パソコン技術者の教育、育成にも力を入れることで、IT関連産業が飛躍的に発展しました。

②言語（英語）

インドはかつてイギリスの植民地であったことから、英語を準公用語としています。英語が広く共通言語として使用されており、米国と同じ英語を使用できるという点が強みとなっています。

③地理

インドとアメリカ西海岸では約12時間の時差があります。このため、アメリカ企業が終業前にインドに業務を発注すると、翌朝までに仕上がっているという利便性があります。

④社会

インドでは人口の約8割をヒンドゥー教徒が占めています。差別は憲法によって禁止されていますが、カースト制度は今でも社会に大きな影響を与えており、時にはこの身分制度によって、職業が限定されてしまうこともあるようです。IT関連産業は、近年生まれた新しい産業であり、カースト制度にはあまり影響されずに職を得たり、高い収入を得たりすることが可能であり、それが大きな魅力となったようです。



ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会